

事業実績報告書

平成25年度

学校法人 明浄学院

学校法人明浄学院

平成25年度事業実績報告書

法人の概要

建学の精神

『明(あか)く、浄(きよ)く、直(なお)く』の精神に則り、豊かな心と深い教養を備え、知性に輝く有為の人材の育成

主な沿革

- 1921.4 大阪府大阪市阿倍野区に「明浄高等女学校」を開校。
- 1947.4 「明浄学院中学校」設置。
- 1948.4 「明浄学院高等学校」設置。
- 1985.4 大阪府泉南郡熊取町に「大阪明浄女子短期大学(英語科)」開学。
- 1989.4 同短期大学に文芸科を増設。
- 2000.4 短期大学と共用敷地に「大阪明浄大学(観光学部・観光学科)」開学。男女共学。
- 2003.4 短期大学2004年度以降の入学生募集停止。
- 2004.4 主たる事務所を大学所在地に移転。
- 2004.9 明浄学院中学校廃止認可。
- 2006.4 「大阪観光大学」に大学名称変更。
- 2009.8 大阪明浄女子短期大学廃止認可。
- 2010.4 大阪観光大学に教職課程設置。
- 2013.4 大阪観光大学に国際交流学部を増設。

設置する学校 (H. 26. 4. 1)

大阪観光大学	観光学部・観光学科 国際交流学部・国際交流学科
明浄学院高等学校	全日制・普通科

学生・生徒数 (H. 26. 5. 1)

	入学定員	編入学定員	収容定員	志願者	合格者	入学者	1年	2年	3年	4年	合計
観光学部	130	20	680	150	136	118	118	106	128	102	454
国際交流学部	60	-	120	11	9	7	7	7	-	-	14
高等学校	265	-	795	464	460	224	224	181	239	-	644
計	455	20	1,595	625	605	349	349	294	367	102	1,112

高等学校は定員に替え募集人員。志願者・合格者に編入学は含まない。

教職員数 (H. 26. 5. 1) (契約教職員を含む専任)

	教育職員	事務職員等	計
大 学	35	22	57
高等学校	40	5	45
法 人	1	2	3
計	76	29	105

法人の教育職員は学院教育支援センター員をいう。

役員等数 (H. 26. 5. 1)

	定数	現員
理事	9～12	11
監事	2	2
評議員	25～28	25

常勤の役員

理事長	難波伸太郎	
理事	三上貴彦	大学学長
理事	赤木 攻	大学副学長・国際交流学部長・教授
理事	中尾 清	大学観光学部教授
理事	小南嘉則	大学事務局長
理事	瑠東東治	高等学校校長
理事	富永晶雄	法人本部長

非常勤の役員

理事	堀 弘二
理事	田浦 清
理事	福本幸子
理事	伊藤 武
監事	中山俊治
監事	見鳥信吉

校地・校舎 (H. 26. 3. 31)

区分	大阪観光大学			明浄学院高等学校			法人総計		
	大阪府泉南郡熊取町大久保南 5-3-1			大阪府大阪市阿倍野区文の里 3-15-7					
	専用	共用	計	専用	共用	計			
校地	45,419.17m ²	0 m ²	45,419.17m ²	13,701.50m ²	0 m ²	13,701.50m ²	59,120.67m ²		
校舎	16,493.42m ²	0 m ²	16,493.42m ²	12,558.00m ²	0 m ²	12,558.00m ²	29,051.42m ²		
図書館	蔵書総数	92,348	座席数	173	蔵書総数	30,228	座席数	64	122,576 冊

(校地・校舎等は、すべて学校法人自己所有。蔵書には視聴覚資料等を含む。)

卒業生数等 (H. 26. 3. 31)

学校	平成 25 年度	卒業生総数
大阪観光大学	119	1,557
明浄学院高等学校	212	36,144
大阪明浄女子短期大学	—	5,427
総計		43,128

高等学校には、明浄高等女学校卒業の 3,868 名を含む。

大学卒業生への授与学位は、学士（観光学）。卒業生数と学位授与数は同数である。

過去の大学卒業生の就職率は次の通り。

卒業	平成 21 年 3 月	平成 22 年 3 月	平成 23 年 3 月	平成 24 年 3 月	平成 25 年 3 月
就職率	92.8%	90.5%	91.7%	92.9%	88.0%

平成 25 年度大阪観光大学事業実績

- 目 標： 中央教育審議会の「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」という答申を背景に、主体的に考える力を育成する大学へ近づけるよう各種の施策を検討、実行する。
- 日本私立学校振興・共済事業団の協力を受け、新たな経営改善5カ年計画(平成23年度から27年度)を策定。教育・研究及び社会貢献をより充実すべく、また、観光関連(観光学部)並びに国際交流(国際交流学部平成25年4月開設)の人材育成の強化を図る。
- また、地元自治体や他大学との連携・協力を図り本学の役割を果たし、その評価を確立することを目標とする。加えて、日本私立学校振興・共済事業団により採択されている「未来経営戦略推進経費補助」を活用し大学経営の安定化の方策を図る。今年度には、新たに「国際交流学部」が発足し、観光学部を合わせ2学部体制となり、両学部の学生への教育の充実をより一層行う。
- 施 策：今年度実施内容および目標
- 項目1 大阪観光大学(観光学部、国際交流学部)の周知を図り、PR活動、学生募集を強化する。
- (1) 学校訪問や相談会への出席等を通じて高大接続を強化する等、本学をアピールすることにより入学者増を図る。
→従来から実施してきた広報活動に加え、交通広告等新たな広報活動も実施し入学者増に努めた。
 - (2) 観光のより広き振興と、日本を世界に発信する国際交流のさらなる発展を推進するため、優秀な留学生確保を行う。
→全国的に留学生数が伸び悩む中、1年生入学52名、2・3年次編入学で17名の留学生確保を行った。
 - (3) 「大学コンソーシアム大阪」主催の高校生のための大学フェアに参加し(7月)、広報宣伝活動を行う。
→今年から、大学コンソーシアム主催フェア関係は見送られた。
 - (4) 国際交流学部においては、新たな英語教育プログラムを開発し、英語教育の広報に努める。
→英語教育プログラムの充実・発展を行い、学生の能力に応じた応用が図れるよう努めた。
- 項目2 「国際交流学部」の特色を積極的に広報し、新たな分野からの入学生確保を目指し、拠って「観光学部」と共に学生確保に繋げ経営の安定化を図る。
→国際交流学部の積極的な広報を行ったが、学生確保の面では不成功だった。次年度に向けて、広報手段・内容の改善に努めたい。
- 項目3 初年次教育及び導入教育さらにはキャリア教育の重要性を鑑み、重点施策とする。
また、FDについては、授業評価を改善し一層の充実を行い、より良き授業を学生に提供する。
→観光学部は、新カリキュラム発足により、新たな初年度教育及び導入教育が実施され、また、キャリア教育も充実させることができた。また、FDについても、観光学部の定例教授会後に実施され、教授改善を行うことができた。国際交流学部は、毎週水曜日に開催している会議において、FDも題材にして科目間の連携を図る「システム教育」の効果を上げている。
- 項目4 文部科学省及び中央教育審議会が提示した「大学改革」の新たな潮流を勘案し、本学の学びの質的向上に努める。
→各種の大学改革を本学としても重要として取組、質の向上や大学情報の公表等に努めた。
- 項目5 観光学部とともに国際交流学部の教育・研究及び社会貢献の充実を努める。
→両学部の教員は、教育・研究向上や社会貢献を地道に進めることができた。
- 項目6 各教員の科研費獲得を目指すとともに、学内の研究を支援するための共同研究費制度を活用し、研究の充実を図る。
→申請に努めた結果、25年度の科研費の採択は、5件(観光学部 2件、国際交流学部 3件)となり、年々上昇傾向となっている。
- 項目7 観光学部に設置している教職課程[高等学校(地理歴史、商業)・中学校(社会)]の完成年度を迎える今年度は、「教職採用」へのステップの充実を図り将来の観光学教育の発展に資する。
→教職課程を修了した学生は、4人で、そのうち1名が教員の職に就くことができた。

- 項目 8 国際交流学部と観光学部の両学部ともグローバル化に対応し外国大学等との協定・交流を行うとともに、留学生の日本語教育や生活指導にも充実を図る。
→新たに、台湾大葉大学と協定を結ぶため学長が訪台。また、留学生に対して日本語能力試験受験促進と合格者を図る指導を行った。
- 項目 9 今年度も積極的に留学生を受け入れる。受入れ 5 カ国等（中・韓・台湾・ネパール・香港） 40 名予定うち 15 名は編入学)
→留学生受入れについては、受入れ 4 カ国（中・韓・台湾・ネパール）から 52 人（うち編入 17 人）
- 項目 10 社会人講座の開講について積極的に対応を図る。今年度も、社団法人「大阪外食産業協会」の協力により「外食産業論」及び「レストラン経営論」（経営者による講義を含む）を本学で正課として開講し、広く社会人にも公開する。
→今年度も、上記講座を開講し、広く社会人にも公開した。
- 項目 11 「大学コンソーシアム大阪」と単位互換事業に協力し、大阪市内で「大阪観光学」及び、「温泉学」を開講し他大学の学生や一般市民に講義を開放する。また、本学校舎においても、正課 2 科目（外食産業論、レストラン経営論）を他大学の学生に開放する。
→大阪観光学に 39 名、温泉学に 111 名の受講者があったが、本学での参加者はレストラン経営論 12 名であった。
- 項目 12 地域との連携は、周辺市町さらには大阪府との関係、また、「大学コンソーシアム大阪」や「南大阪地域大学コンソーシアム」という地域大学連携組織との関係をも深め、一層の拡充を図る。また、堺市観光ボランティア協会と連携し、地域の観光振興に寄与する。特に、泉州 13 市町との連携事業である「泉州 RUSH プロジェクト」を推進する。
→今年度も例年と同じように、計画通りの内容を推進することができた。
- 項目 13 科目等履修生を社会人に対して積極的に募集する。（予定開講科目 60 科目）（昨年度 62 科目 6 人）また、社会人の正規学生としての受け入れを検討する。
→履修生がなかった。今後、広報に努めたい。
- 項目 14 キャリアアップ講座として、貿易実務講座及び販売士講座を開講し、一部社会人にも公開する。（昨年度 1 講座 25 人）
→貿易実務講座（6 名うち 2 名社会人）を開講した。
- 項目 15 総合旅行業務取扱管理者、国内旅行業務取扱管理者の合格率向上を図る。
→25 年度は、国内旅行業務取扱管理者は 4 人の合格者、総合旅行業務取扱管理者の合格者は 1 人であった。また、今後より効果的な学習指導に努める。
- 項目 16 大学生活の充実を図るため、クラブ活動の活性化を図る。
→野球部の活性化や新たなクラブとして吹奏楽部を創設し、学生生活の活性化を図った。
- 項目 17 学生の積極的な学習（アクティブラーニング）を推進するため、図書館の土曜日開館や新たに設置した国際交流サロンを活用する方策を検討する。
→当該目的を果たすべく、土曜日開館や国際交流サロンの活用を行った。
- 項目 18 校舎や施設設備の経年劣化が発生していることから、計画的にその補修を進めていく。
→今年度は、第 3 教室棟の中央監視盤が設置から 13 年が経ちその機能を果たせなくなっていることから、交換を行った。
建物の屋上部分については、塗装を行う等の補修を行った。

平成 25 年度明浄学院高等学校事業実績

平成 25 年度明浄学院高等学校の事業実績は下記の通り。

1. 生徒募集の強化

平成 25 年度入学生の入学者数は 224 名、3 学年総計 644 名となり前年を 7 名上回り、収支改善に大きく寄与したと自負するところである。

募集係りの功を多とするところである。

2. 教育内容の充実

平成 25 年度も躰・和心・グローバルを行動指針とし、過去 6 回の宮中歌会始秀歌をバネに伝統教育の力を遺憾なく発揮することができた。

グローバル面では台湾・彰化高級中学で開催される世界の高校生による国際会議に 5 年連続で日本代表に選抜され、世界の高校生に伍して堂々と討論を交わしたところであり、今回もアフリカの孤児のために参加者全員が連日托鉢行を行い寺院に宿泊しながらの討論であり、より一層参加者全員の親交が深まったのである。

海外高校との提携では豪州マリスタ女子高校に加え韓国・密陽女子高校とも協定し、相互の短期留学を実施することができた。

ユネスコスクール関連では次年度岡山市で開催される世界大会の幹事校に決定するなど、多岐に亘って活躍をしてくれた。

新学習指導要領施行に併せ本校教育課程を全面的に改訂した初年度である。特徴的には 5 教科 7 科目のセンター入試に対応できる科目を増設し、理科系受験も可能なようにし、国際理解教育の充実を期し外国語に韓国語、中国語を加えた。伝統教育の分野では茶道、華道を学校設定科目とし躰教育の強化を図る。

3. 進路実績

特筆すべきは普通コースから早稲田大学教育学部に合格。特進コースは奈良県立大学地域創造学部合格。看護系大学・短大・専門学校に 26 名合格。

詳細は別紙 (p.6・7) の通り。

以 上

過去6年間の進路結果 大学(抜粋)

学校名(結合)	学部名	学科名	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25
大阪府立大学	総合リハビリテーション	栄養療法			1			
岡山大学	法					1		
早稲田大学	教育							1
関西学院大学	文	文学言語			1			
	教育							1
関西大学	文				2			
	外国語			1				
	法						1	
	経済				1			
立命館大学	政策創造	生活造形				2		
	文			1	1		1	1
近畿大学	政策科学			1				
	産業社会	子ども社会			1			
	法	法律					1	
京都産業	経済				1			
	経営				1		1	
	文芸	文						1
	総合社会	心理						1
		環境						1
	農	食物栄養			1			
龍谷大学	外国語	英米語			3			
		言語			3			
	経営			1				
関西外国語大学	文						1	
	国際文化							1
	社会	コミュニティマネジメント			1			
京都外国語大学	外国語	英米語		1	3		3	
		スペイン						1
同志社女子大学	国際言語		1	1	1	1	1	
京都女子大学	外国語		1				1	1
	現代社会			1		1	1	
	表象文化	外国語		1				
畿央大学	学芸	音楽					1	
	文			1	1			
武庫川女子大学	生活造形							1
	教育	現代教育	1	1			1	
大阪経済	生活環境				1			1
大阪経済	経済				2			
長浜バイオ大学	バイオサイエンス	バイオサイエンス					1	
大阪河崎リハビリテーション大学	保健医療	理学療法					2	
大阪芸術大学	芸術		2		1		1	
大阪体育大学	体育						1	2
	健康福祉	健康福祉				1		
大阪保健医療大学	保健医療	リハビリテーション	1				1	
甲南女子大学	文		1	3			1	
	人間科学		1	2				
京都ノートルダム女子大学	人間文化	英語英文		1			1	
大阪観光大学	観光		5	1	4	2		2
	国際交流							1

過去5年間の進路結果 看護系大学及び専門学校(抜粋)

学校名	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25
畿央大学					1
千里金蘭大学	1	1	1	1	1
森ノ宮医療大学		1	1		1
摂南大学			1		
大阪厚生年金看護専門学校				2	
近畿大学附属看護専門学校	1	1		1	
大阪労災看護専門学校				1	1
大阪警察病院看護専門学校		1			
大阪赤十字看護専門学校	2				
パナソニック松下看護専門学校		1			
関西医科大学附属看護専門学校	2	2	1	2	
行岡医学技術専門学校				1	
大阪府医師会看護専門学校	1	1	1	4	1
大阪済生会中津看護専門学校		1			
大阪済生会野江看護専門学校	1				
清恵会医療専門学院			1		
大阪南医療センター付属大阪南		1			
大阪医療センター附属					
PL学園看護専門学校		1			
堺看護専門学校		1			
南大阪看護専門学校	2			1	1
泉州看護専門学校		1		1	1
泉佐野泉南医師会看護専門学校		1			
久米田看護専門学校		1			
ベルランド看護助産専門学校					1
奈良県立三室病院		1			
三原看護専門学校		1			
浅香山病院看護専門学校	2	1	2		1
兵庫県立柏原看護専門学校				1	
大手前看護専門学校	2	2			
大阪保健福祉専門学校			1	2	
大阪医専		2	1	1	1

平成 25 年度学校法人明浄学院法人本部事業実績

法人本部部門では、次のような事業を推進した。

(理事会・評議員会関係、人事、財務等の常例的業務を除く)

1. 平成 23 年度から 27 年度までの第 3 期中期計画を継続的に執行した。
 - (1) 大学、高等学校の活性化に資するため、クラブ活動支援のための投資を実施した。
 - (2) 学院全体としての統一的広報を継続して実施し、学生・生徒募集について側面から支援した。
 - (3) 国際交流学部設置後のアフターケア委員会を設置して、設置計画の実施に関する必要事項について検討し対応した。
2. 今後の経営選択肢について検討し、情報を収集した。
3. 学校法人天王寺学館との連携基本協定に基づき、教育機関としての補完的・互恵的連携について協議を継続している。

なお、財務状況については、決算書及び決算の概要等を参照。